

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17071

研究課題名（和文）境界の多層化：日本をめぐる緊張と脱領域化

研究課題名（英文）Scaling borders: Tension and deterritorialization, Japan and beyond

研究代表者

BOYLE EDWARD (BOYLE, Edward)

九州大学・法学研究院・助教

研究者番号：30760459

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル化における日本の国境の研究から得た知見を基に、近代における領土や国境の多層的な性格を基礎とする普遍的に応用できる理論を構築することを目指した。この研究助成により、日本における国境管理や政策について、多くの国際学会で報告する機会を与えられ、国境や境界研究の国際的ネットワークからも多くの意見をもらうことができた。また、世界各地における国境管理や境界をめぐる現状と将来について、日本の現実と経験が、グローバルに展開されている対話の中で、その重要性を増すようになったことも一つの成果である。引き続き日本における国境概念やその管理について、歴史的かつ現代的意義を追究することを試みる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、欧米の境界研究理論・方法論を日本の国境実態との兼ね合いで再検討し、国境というグローバル化において動静されつつ政治空間の創出に対しての新局面を分析できる理論を発展することを試みた。理論研究と実証研究との有機的連帯を図りつつ、グローバル化における国境への展望を示すことが、日本における境界研究の国際的地位を向上させるのみならず、政治（地理・経済）学研究、国際関係論研究、移民研究などに対する重要な理論的インパクトを与えることができた。ここに、本研究成果の学術的意義と社会的意義が存在する。

研究成果の概要（英文）：Thanks to this grant, I have been able to present data on Japan's border management and policies at around thirty international conferences, and received feedback on my ideas from a number of international networks. This has incorporated Japan's border realities and experience into an increasingly important global conversation regarding the state and future of borders today. I have produced multiple articles detailing aspects of what has been learnt in the course of the grant period. The results of the project will continue to emerge for the next couple of years, and will feed into my future work on the historical and contemporary aspects of how Japan understand and administers its own borders.

研究分野：国際関係論

キーワード：国境 国家 脱領域化 グローバル化 スケール 国家空間 空間認識 地図作成

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の国境問題

日本が関わる隣国、つまりロシア、韓国、中国との国境問題の比較及び相関分析は、近年、岩下明裕が『北方領土、竹島、尖閣 これが解決策』(朝日新書、2013年)などで整理したように、学界でも注目を浴びている。他方で、古川浩司による比較研究「日本の国境問題：包括的視点」(*Journal of Borderlands Studies*, Vol.26 No.3, pp.297-314, 2011)のように、日本の様々な境界地域に目配りしつつも、その分析は主としてナショナルな枠組みでなされており、より広義に東アジアの文脈でとらえられた場合でも、東郷和彦が主張するように(「領土問題の背後にある歴史問題—それを忘れると百年の計を失う」『日本の論点』2012年、208-211頁など)、歴史問題やナショナリズムといったテーマで議論されがちである。このことから、日本の国境分析についてナショナルを越える視座に基づき、多角的かつグローバル化の文脈において分析することは緊急の課題となっている。

(2) グローバル化下の国境・領土問題

世界の研究状況を俯瞰すれば、「ベルリンの壁」崩壊後、ボーダーをめぐる研究の進展は著しく、多数の研究者が「グローバル化が進めば国境問題はより解決しやすくなる」と期待していた。理由は様々だが、例えばアンジ・パッシは「領土自体の重要性が低下する」とみなし、リーとミッチェルは「経済的相互依存の増加」がこれを促すと考えた。さらにフスとアレは「民主主義的な平和主義の尊重」が、オクスマンは「多国間枠組みの創造」が解決に資すると主張した。しかしながら、これらの期待とは逆に、近年、領土問題は激化し、国境地域では「壁」「フェンス」が次々と建設されている。要するに、マーフィが言うように、世界のどの国においても「国境は依然、戦っても守るべき価値あるもの」とみなされている。日本や東アジアにおいてもいまだに「固有の領土」という説明の難しい概念が流布していることは周知の通りである。

(3) 領土・国境の再構築

他方で、近年の政治地理学やボーダースタディーズ(境界研究)では、「境界はどこにでもある」というバリバールの理解を前提とし、国境の脱領土化の進展も指摘されている。だが、グローバル化におけるその脱領土的な性格を分析する際においても、すでに指摘したように、その方法論はいまだ国家の枠組にとらわれており、「領土はあくまで国家の一部」たることを前提とした、国家中心的なアプローチ以外のものを見いだせずにいる。さらに、世界的にも国境を巡る諸問題が頻発しているように、国境警備や国境地域の安全保障を越えて、問題の政治争点化の広がり、国境に関わる実態とこれに伴うディスコースや再構築を引き起こしている。本研究は、ラムフォードの言う *multiperspectival borders* の知見から出発し、国境概念の様々なレベルやスケールに焦点を当て、グローバル化のもとでの日本を巡る領土や国境に関する新たな視点を提供するとともに、多層的な理論形成に寄与する。

(4) 概念構築

申請者は、博士論文では、17世紀から19世紀の日本において蝦夷地の領地が作られ北海道として組み込まれていく過程を分析し、領土の構築や国境策定化が行われた多様なレベルやスケールに注目したが、本研究では、二国間レベルで主として取り扱われていた日本の

国境問題が近年、パッケージとして議論されている点に着目する。さらに申請者は20の大学が連携しているカナダのビクトリア大学に拠点をおく **Borders in Globalization (BiG)**、<http://www.bigglobalization.org/>) のプロジェクトに関わっており、現代における国境の変容の比較研究におけるアジア地域を担当している。現代における日本の国境の変容を分析するためには、日本の国境に関する詳細な歴史的検討と同時に比較的観点を発展することが不可欠である。

2. 研究の目的

境界の脱領域化という概念は、国境の浸透性と多様な空間に於いて機能することを強調している。これは、ギデンズのいう国家の機能がいわゆる「閉ざされた権力の巣窟」であるという以前の理解とは全く異なっている。しかし、いまだに残る疑問としては、なぜ国境で区切られた領土がいまだに重要性を帯びているか、またなぜそれが閉ざされており、世界中で紛争の原因となっているのか。この疑問に答えるために、本研究では、日本の国境を理解するための枠組みを構築し、またその機能の脱領域化を実証的に分析する。

この研究を行うことによって、日本の国境を取り巻く紛争とグローバルな次元における領土の変容の関係性について明らかにしていく。以上を明らかにすることで、グローバル化と、日本に行われている国境の変容の明確な関係を描くことを期待する。しかし、国境における変容課程をグローバル化という視点のみから説明するは還元主義的思考であり、ニューマンが指摘するように、グローバル化によって「国境における不均衡な影響」が国境を構築する多重なレベルで進行している。したがって、本研究の主な目的は以下である：

- (1) 国境とはいかに国家の領土に基づいて構築されるかと検討し、
- (2) 国境がどのように多様なスケールにて構築されるかを理解し、
- (3) 日本とその他の地域における多層的な国境の在り方を比較するものである。

以上のことを遂行することで、グローバル化における多様な脱領土化の影響は、結局のところ、地方からグローバルなものまで多様な規模と段階に及んでいる。そのため、国家の権力を国家の領土に再根拠する過程を明らかにすることによって、グローバル化における国境の変容に関する多層的な理論へと発展させることが可能であると考えられる。

3. 研究の方法

日本の国境は、概念的にも地理的にもかなり広義な概念であり、日本の領土として定義される島々、国境が管理され統治される多様な拠点、そして国境に関連した政策の立案から導入までを手掛ける政府の様々なレベルなどがその概念に関係している。日本の国境政策に関する研究プロジェクトに従事していたため、日本の国境がグローバリゼーションによって、どのように影響されているのかを探るための大きな手がかりとなろう。

国境に関する理論を構築するためには、本研究はカナダ・ビクトリア大学の **Borders in Globalization (BIG)** 研究プロジェクトと協力し、日本の国境変容の重要性を適切な文

脈の中で理解することを試みた。BIG プロジェクトのデータを活用することによって、グローバリゼーション下における日本の国境とその他国境を複数比較することが可能であった。グローバリゼーション下における脱領土化や再領土化といった矛盾した傾向を、理論化するために日本の事例は不可欠であり、その主な理由としては、日本における歴史的にも独特な海の国境からなる体制という意識と同時に、現在課題となっている国境体制の規範的な先導者となった西洋諸国と共有しているポスト帝国主義的遺産である。

本研究で得た実証データを分析することによって、グローバリゼーションがどのように日本の国境を変容させているかという知見を提供してくれるとともに、日本の事例が他の国境が変容される過程と比較してどのような共通点・相違点があるかを検討することによって、研究だけでなく政策面にも寄与することを確信した。

本研究が目指す目標であるグローバリゼーション下における国境の変容に関する多層的な理論の構築は、今後の理論的枠組みやデータの収集の道標となり、現在まだ包括的な理論がない現状においても、その分析によって日本の国境に関する基調な発見が獲得されると考える。同様に、個々が集めたデータだけでなく、現存する研究ネットワークの成果である質的・量的データを活用することによって、その実証性が格段と増す。

4. 研究成果

本研究の成果について、主に研究目的の(1)から(3)に沿って、下記に示す通りである。

【(1) 国境と国家の関係について】

2016年4月中旬にカナダ・ビクトリア大学と Association of Borderlands Studies (ABS) 年次大会で報告、同年7月にポーランドで開催された International Studies Association (ISA)では企画パネル、2017年4月に行った American Association of Geographers (AAS) 年次大会の報告、ブリティッシュ・コロンビア大学のワークショップとそして同年 ABS 年次大会で “Island Borderlines: Mapping points of enforcement in the Japanese archipelago”を報告した 2018年4月には “Hokkaido Workshop on Immigration Policy and Border Security in Japan”、同年7月 ABS World 国際大会にて招集したパネル “Bordering East Asia: ideas of territory and ideal territories at Eurasia’s Eastern Edge”、”Borders and Boundaries in Asia”、 “Border-Making and its Consequences: Global Track”でそれぞれ報告をした。2019年4月に開催された ABS 年次大会では “European Union Border, Migration and Security Policies in Comparative Perspective”と題したラウンドテーブル、 “Japan’s Borders in the Contemporary World”を発表し、日本の国境政策等について、グローバルな視点から比較検討をした。また地域レベルからのアプローチとしては、2019年7月の “Knowledge, Security and ‘Cartographic Anxiety’”と11月の “Constructing Edges: Illuminating Border Development in East Asia”によって検討することができた。

【(2) 国境の多様なスケールについて】

2016年8月の中国や、10月のルクセンブルクにて開催された研究会では、スケールについて研究報告を行った。また 2016年12月に九州大学で開催した国際学会

“Borders of Memory: National Commemoration in East Asia”が日本と隣国における国境の各機能を再検討する機会となった。国境に対してのグローバルレベル、または地域レベルの比較研究を行った。その関連で、2017年9月のヨーロッパ日本研究協会の大会（リスボン）や、2017年10月の日本南アジア学会年次大会では研究報告を行い、同年11月のKyushu University Interdisciplinary Colloquiumと共催した“All hands on deck? Navigating Asia’s new Security Seascape”研究会や、九州大学の西新プラザで開催した12月の“Between Asias: Inter-regional Spaces”国際大会、2018年1月の「北東アジアの危機と岐路」国際大会にて、発展した。2018年7月におけるISA（Brisbane）や、9月の国際社会科学フォーラム（福岡）でもスケールに関する研究報告を行い、2019年4月の韓国・中央大学では“*Illuminating Edges: Reflecting on the Sino-North Korean Boundary*”と題した招待講演や、同月のサンディエゴにおける“*Border of Memory: Heritage divides in Palau and the Yaeyamas*”という研究報告を行った。また、2019年9月にJapan Forumというジャーナルにて、*Borders of Memory* についての特集、論文も発行した。さらに、本研究の歴史的「厚み」を増すため、2017年4月のコロンビア大学で報告、2017年9月にはライデン大学で報告、10月にはスタンフォード大学で報告し、研究目的の（1）と（2）をより広い歴史的視点から19世紀初頭の日露摩擦の原因となった「領土化」する過程を分析する機会を得ることができた。これをより発展させるため、琉球大学の研究基金にて、中京大学の古川浩司が代表する「アジア太平洋島嶼国・地域のボーダーに関する比較研究：沖縄の離島と南洋諸島を中心に」に協力し、2019年2月19日の韓国・中央大学の招待講演にて“*Borders of Memory: War Heritage in Palau and the Yaeyamas*”と題した報告をした。

【(3) 国際比較について】

本研究では、グローバル化が国境にもたらす影響の幅と深度に関する分析も行った。その研究成果は、岩下明裕と協力し、2017年2月のワシントンDCで行ったUSJIフォーラムや、2017年4月に行われる各学会にて報告する内容に反映されている。この多層的な国境機能を分析した研究を行うことにあたって、日本の国境に着目し、また、グローバル・レベルにおける国境の脱領域化が日本にどれほど当てはまるかという分析も併せて行い、日本、または世界における国境の機能を理解することの可能性について、2018年3月末のAAS年次大会にて招集、報告した“*Territory in East Asia: Islands and Seas*”パネルで提示した。多層的な国境の在り方について、2019年5月の“*Populism in Context*”のワークショップ、2019年8月の“*ABSj-NIHU Seminar on Japan’s Ocean Borderlands*”にて検討してきた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Edward Boyle and Sara Shneiderman	4. 巻 6.2
2. 論文標題 Redundancy, Resilience, Repair: Infrastructural Effects in Borderland Spaces	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Verge: Studies in Global Asias	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） -	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Edward Boyle	4. 巻 -
2. 論文標題 Mapping of the Maritime Boundaries at Japan's Northern Edge in the 19th Century	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Asian History	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） -	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Edward Boyle	4. 巻 8
2. 論文標題 Sketching Layers in Japan: Mineral wealth, geo-bodies and imperial territory	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mapping Empires: Colonial Cartographies of Land and Sea	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） DOI: 10.1007/978-3-030-23447-8_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Edward Boyle	4. 巻 31
2. 論文標題 Borders of Memory: affirmation and contestation over Japan's heritage	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan Forum	6. 最初と最後の頁 293-312
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09555803.2018.1544582	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Edward Boyle and Mirza Zulfiqur Rahman	4. 巻 3
2. 論文標題 Informal Markets and Fuzzy Flows in Fragile Border Zones	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 antiAtlas Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Boyle Edward	4. 巻 70
2. 論文標題 The Tenpo-Era (1830-1844) Map of Matsumae-no-shima and the Institutionalization of Tokugawa Cartography	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Imago Mundi	6. 最初と最後の頁 183 ~ 198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03085694.2018.1450542	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Edward Boyle	4. 巻 6
2. 論文標題 Cartographic Exchange and Territorial Creation: Rewriting Northern Japan in the Eighteenth and Nineteenth Centuries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dissemination of Cartographic Knowledge	6. 最初と最後の頁 75-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 978-3-319-61515-8_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Edward Boyle	4. 巻 7
2. 論文標題 Borderization in Georgia: Sovereignty Materialized	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Eurasia Border Review	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/ebr.7.1.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Edward Boyle	4. 巻 24.1/2
2. 論文標題 A 'Little Berlin Wall' for all: discursive construction across scales	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Europa Regional	6. 最初と最後の頁 80-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計39件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 28件)

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 New connectivity, old connections: facilitating and obstructing cross-border mobility at the Bangladesh border
3. 学会等名 ICAS (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Knowledge, Security and 'Cartographic Anxiety': Creating and utilizing cartographic knowledge in nineteenth-century Japan
3. 学会等名 ICHC (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Japan's Populism in Context
3. 学会等名 Populism in Context (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Japan's Borders in the Contemporary World
3. 学会等名 European Union Border, Migration and Security Policies in Comparative Perspective, ABS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Illuminating Edges: Reflecting on the Sino-North Korean Boundary
3. 学会等名 The 1st International Joint Conference between RCCZ and UBRJ "Macro-Micro Relations in East Asia and Contact Zones: Regime;Crevice;Hybrid in East Asia's Relations" (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Borders of Memory: War Heritage in Palau and the Yaeyamas
3. 学会等名 Chung-Ang University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Contentious Connections: informal markets, formal trade and the geopolitics of connectivity in Northeast India
3. 学会等名 IDE
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Contentious Connections: trade and investment in Northeast India
3 . 学会等名 Connectivity and 'Cartographic Anxieties' : Territory, Borders and Geopolitics in 'Zomia' Asia, ASAFAS, Kyoto University
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Exploring Connections in Connectivity
3 . 学会等名 31st Annual Conference of The Japanese Association for South Asian Studies (JASAS), Kanazawa, September 29, 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Envisioning Island Spaces: Integral territory and national fragments
3 . 学会等名 World Social Science Forum, Fukuoka, Kyushu, September 28, 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Imperial grounding: maps, modernity and the 1876 Geological Sketch Map of the Island of Yesso
3 . 学会等名 Mapping Empires: Colonial Cartographies of Land and Sea, University of Oxford, September 13, 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 A Crisis of Representation? Barbarian threats and writing Japan into the world
3. 学会等名 British Association of Japanese Studies Conference, University of Sheffield, UK, September 7, 2018. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Disputing National Territory in Local Politics
3. 学会等名 IPSA/AISP 25th World Conference in Political Science: Borders and Margins, Brisbane, Australia, July 25, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Territorialized and De-territorialized borders in Japan
3. 学会等名 Association for Borderlands Studies World Conference, Central European University, Budapest, July 13, 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Border Layers: peeling back the India-Bangladesh border
3. 学会等名 Political Geography Specialty Group AAG Pre-Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Inaccessible yet integral territory: Japan ' s territorial disputes and their sovereign implications
3 . 学会等名 Association of American Geographers Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Writing Japan ' s Territory into the World: the cartographic creation of the Ezochi
3 . 学会等名 Donald Keene Center for Japanese Culture, Columbia University (招待講演)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 The Changing Shape of Japan: territorial disputes and remapping borders
3 . 学会等名 Workshop on Borderwork: Migration and Territory in East Asia, UBC Institute of Asian Research, University of British Columbia (招待講演)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Borders in Japan
3 . 学会等名 Borders in Globalization, Association for Borderlands Studies Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Island Borderlines: Mapping points of enforcement in the Japanese archipelago
3. 学会等名 Association for Borderlands Studies Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Japan and its Borders
3. 学会等名 SRC Border Studies Summer School, Hokkaido University (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 The Changing Shape of Japan: 'integral territory' and remapping the sovereign body
3. 学会等名 15th International Conference of the European Association of Japanese Studies, Lisbon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 A Cartographic Melting-Pot: Tracing the development of the maps used by Siebold
3. 学会等名 Mapping Asia: Cartographic Encounters between East and West, Leiden University Libraries (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Marginal Investment? Multiscale border effects in India's Northeast
3. 学会等名 30th Annual Conference of The Japanese Association for South Asian Studies (JASAS) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Charting Cartographic Exchange
3. 学会等名 Barry Lawrence Ruderman Conference on Cartography, David Rumsey Map Center, Stanford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Triangulating Frontiers: Northeast Asia as Relational Territory between Russia, China and Japan
3. 学会等名 Global Frontiers International Winter School, Tübingen, Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 BIG Country Report on Japan
3. 学会等名 Borders in Globalization 2nd International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Japan
3. 学会等名 Borders in Globalization 2nd International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Puncturing the skin: Connecting Northeast India 's arteries to Dhaka, Naypyidaw, Beijing...and Tokyo
3. 学会等名 Locating Northeast India: Human Mobility, Resource Flows and Spatial Linkages, Tezpur University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Remapping Japan: Incorporating Maritime Spaces as ' Integral Territory '
3. 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Arctic borders in Asia
3. 学会等名 Joint Workshop on Challenges for a Sustainable Arctic (招待講演)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Examining Japan ' s borders under globalization
3 . 学会等名 ABS Annual Meeting (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Securitizing a Deterritorialized Border: Premodern Throwbacks or a Post-Westphalian Asia
3 . 学会等名 IPSA/AISP 24th World Congress of Political Science (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Geopolitical pivots and blue national soil: the difficulties of free-flowing territory
3 . 学会等名 C12.33 Political Geography - The Eurasian Pacific: Geopolitical Moments and Unfulfilled Promise, 33rd International Geographical Congress, (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Edward Boyle
2 . 発表標題 Beyond the borderline: rescaling cross-border linkages in a globalizing Asia
3 . 学会等名 C12.33 Political Geography - The Transformation of Political Space and Prospects for New Governance in the Contemporary Phase of Globalization (2), 33rd International Geographical Congress (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Local concerns, regional visions, national security: towards a multi-scale theory of borders in Asia
3. 学会等名 The Second International Conference of Political Geography on Migration and Borders (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Mobility and Borders at Scale: Georgia between European and non-European space
3. 学会等名 IV Mobility and multilocality; Session 5 Migrations and bordering processes, ABS Europe Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Cartographic exchange and territorial creation: rewriting northern Japan in the eighteenth and nineteenth centuries
3. 学会等名 ICA 6th International Symposium on the Dissemination of Cartographic Knowledge (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Edward Boyle
2. 発表標題 Asia and the world as seen by border studies: Implications for US-Japan Relations
3. 学会等名 Roundtable Policy Forum as part of USJI Week
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<http://borderthinking.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----